

津波被災 石巻・大川小調査

教師証言メモ 市教委廃棄

報告書作成後 信頼性揺らぐ

東日本大震災の津波 係者に震災当時の状況を 映されたかを検証できず、調査の信頼性が問われそう。

で、全校児童の7割に当 聴取した際の証言メモを 基にした」という報告書 請求で入手した報告書に よると、男性教師への問

き取りは3月25日、市教 委の男性職員2人が行っ た。男性教師は当時学校 にいた教職員11人の中で 唯一助かったが、現在は 休職中。現場の状況を知 る数少ない大人の一人 だ。

市教委学校教育課によ ると、聴取は20、30分間 行われ、職員は教師の発 言をメモ用紙に書き取っ た。「大川小事故報告並 びに聞き取り調査記録」 と題した報告書が5月に 完成した段階で、メモを 全て廃棄したという。

ほか児童24人と中学生、 当時外出していた大川小 の女性職員、周辺で警戒 を呼び掛けていた市職員 の計27人にも4、5月に 聞き取りを実施。それぞ れの証言を記したメモも 「概要」として報告書にま とめた後、「全て捨てた」 (学校教育課)という。

「信じられない」

石巻市教委が、津波で甚大 な被害を受けた大川小の男性 教師ら関係者の証言メモを廃 棄したことをめぐり、児童の 遺族からは「信じられない」 という憤りや、再調査を求め る声が上がっている。

「なぜ大事な資料を捨てた のか。市教委は学校管理下で 74人もの児童が犠牲になった 事実の重さを、理解していな いのではないか」。6年生の 娘を亡くした両親は言う。

3年生の息子を亡くした父 親は、「捨てていいメモと重要 なメモの区別もつかないの か。市教委には検証を任せら れない。市は第三者委員会の 設置など、再調査を考えるべ きだ」と訴える。

わが子を失った悲しみに加 え、震災後の市教委の対応に 不信感を募らせる遺族は少な くない。市教委が当時の状況 を説明する場を設けたのは、 4月9日が初めて。6月4日 の第2回説明会は約1時間半 で打ち切れ、「以後は行わ ない」とされた。

なぜ悲劇が起きたか検証 証して今後を生かすため には、証言の一言一句を 公文書として記録、保 管し、音声も録音する必 要があった。開示された 文書は「概要」というタ イトル通りに非常に簡 素な内容で、男性教師が 実際に何を話したかが

74人犠牲 重み理解していない...

石巻市教委が、津波で甚大 な被害を受けた大川小の男性 教師ら関係者の証言メモを廃 棄したことをめぐり、児童の 遺族からは「信じられない」 という憤りや、再調査を求め る声が上がっている。

「なぜ大事な資料を捨てた のか。市教委は学校管理下で 74人もの児童が犠牲になった 事実の重さを、理解していな いのではないか」。6年生の 娘を亡くした両親は言う。

も要求再調査 遺族憤る

子ども2人を失った母親は 「説明会は2回とも『保護者 の要望に応じて聞く』とこれ 自分たちを正当化する話ばかり だった。メモ廃棄も、そっ した姿勢から生じたように思 えてならない」と不信感を隠 さない。

市教委は、男性教師の

市教委の担当者は「詳し い発言内容は記憶にない が、大切な部分だった部分 は報告書に反映させた。 メモはたまるだけなので、保存する理由はない」と説明する。

市教委は、男性教師の

大川小の被害 3 月11日の地震直 後、児童はいったん校庭 に避難。北上川の橋のたもとにある小高い場所へ 移動する途中、川をさかのぼった津波に襲われ た。児童108人のうち 69人が死亡、1人がDN A鑑定中で、4人の行方が分からない。当時学校 にいた教職員11人は10人が死亡・行方不明。校庭などに避難した住民も多 くが犠牲になった。